

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2779101795		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家淀川(2階)		
所在地	大阪府大阪市淀川区十三元今里1丁目9番6号		
自己評価作成日	平成25年7月12日	評価結果市町村受理日	平成25年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kanji=true&JigyosyoCd=2779101795-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔の絶えない家庭的で静かに時間が流れる生活空間が作れるように一人ひとりの個性と主体性を尊重し、さらに地域社会との交流をもちながら地域社会の一員として生活できるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、年齢を重ねても症状が進んでも利用者の尊厳を守り支援するとの職員の思いを大切に日々取り組み、利用者からは穏やかで優しい表情が見られています。職員は毎月利用者と協働してちぎり絵の作品を作ったり、うちわづくりや絵がみ等、楽しみながら手作業が出来るよう支援しています。運営推進会議では、毎回家族に案内状を送ることで多くの家族が出席し、出された意見から職員間で検討し、体を動かすためにラジオ体操を取り入れたり、ホーム便りの内容を変更するなど、運営に反映させています。職員のコミュニケーションが良く、会議等でもそれぞれが意見や提案を出し合い、サービスの向上に繋がっています。また「ほめカード」と称する他職員の良いところをカードに記入し手渡すことで、職員相互のモチベーションを高める取り組みを行っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場に理念を掲げ、毎月の会議時には唱和し共有と実践に努めています。	法人の理念を事業所の理念と捉えスタッフルームに掲示しています。職員は利用者の尊厳を守って接する事を大切にし、丁寧な対応を心がけています。会議等においても職員に伝達しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外食レク、日用品の買い物等で商店街を利用するようにしています。また月に何度か地域の方にボランティアで踊りやハーモニカ演奏をしていただいています。	自治会に加入し、回覧板等で情報を得ていますが、地域行事の参加には至っていないのが現状です。散歩や買い物の際には近隣の方と挨拶を交わしています。地域のボランティアの来訪があり、近くの幼稚園から交流の声かけもあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が施設の事や介護保険の事等、教えて欲しいと立ち寄られる事があります。その際は丁寧な対応を心がけています。またわからない事があれば、区役所等関係機関をご紹介させていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの職員、地域の方、家族様からさまざまな意見、助言、要望を取り入れながらサービスの向上に努めています。	家族や地域、行政が参加する運営推進会議は、2ヶ月毎に開催され家族には毎回案内状を出し、参加してもらっています。会議では事業所からの報告がなされる他、参加者より意見や助言をもらい、ホーム便りの内容を変更に繋げるなど、多くの意見を運営に反映させています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとは運営推進会議を通じて、事業所の実情やケアサービスの取り組みを報告しアドバイス等いただいています。市町村担当者とは密に連絡は取っていませんが、わからないことがあれば直接出向いて話を聞いています。	地域の方から介護保険等の相談を受け区役所に繋いだり、申請書類について担当者に相談する等、何かあれば連絡を取っています。研修の情報も得ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については全職員研修を通して理解を深めるよう努めています。各フロアは施錠していないが、玄関については安全確保の為施錠しています。	研修等を通じ、職員は身体拘束について正しく理解していますが、不適切な対応があれば会議等で話合うこともあります。玄関や階段出入り口は施錠していますが、ユニット入り口は開錠し自由にエレベーター等で移動する事が出来ています。外に出たい様子が見られる際は花の水やりや散歩等、職員が付き添い対応しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について全職員研修を通して理解を深め、虐待防止に努めています。		

グループホームたのしい家淀川(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については利用されている方がいらっしゃるので全職員ある程度の理解はあるが、今後さらに理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはホームの理念、運営方針、金銭面などについて十分に説明し納得いただけるまで時間をかけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは会話の中で意見や要望を聞くよう意識しています。家族様からは、意見箱を設置しているのと、施設に来られた際、意見を伺うようにしています。また契約時には本社と市区町村、公的団体の苦情相談窓口をお伝えしています。	利用者の要望は日々の会話の中で把握し、速やかに対応しています。また家族の意見は来訪時や運営推進会議の中で聞き、体をもっと動かしてほしいとの要望には、職員間で検討し毎日ラジオ体操に組み込むなど、サービスの向上に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りや月1回のカンファレンスで意見を交換しています。また意見や提案があれば随時話しを聞いています。	シーツ交換や日誌のフォーマット変更等について職員から提案を受け、業務改善を行うなど、申し送りや会議の中で全員の意見を聞く機会があります。また他の職員の良いところを指摘する「ほめカード」を利用して職員間の意欲を高める取り組みをしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課制度があり、職員個々の努力や実績を把握し給与に反映できるような仕組みを作っている。またほめカード活用しお互いをほめ合う事でモチベーションの向上に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員は3日間本社で研修を受けたあと業務に従事している。また社内です定期的に研修が実施されています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度は本社に各施設の管理者、フロアリーダーが集まる機会があり、勉強会、情報交換をしています。また3ヶ月に一度淀川区のグループホーム連絡会、現場の声という会に参加し、情報交換しサービスの向上に努めています。		

グループホームたのしい家淀川(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族だけでなく必ず本人とも面談し困っている事、不安や要望を聞くようにしています。入居後もコミュニケーションをはかり不安や悩みを理解するよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時から十分に時間をかけ家族が困っている事、求めている事を聞くようにしている。また入居後の生活などについても十分説明し不安な事については過去の事例などをあげ説明しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は本人と家族が必要としている支援が何であるか見極め、希望に沿った援助ができるか検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等できることはして頂き、出来ない部分は職員がフォローし共に行う事で、暮らしを共にする家族のように感じて頂けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	見学時から家族、職員が協力して本人を支えていきたいという事は伝え、契約時にもお願いしています。何か変わった事があれば報告、新しく始めたい事があれば事前に家族様に相談し実践しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に家族、友人、など何時でも面会に来ていただけるようお願いしています。また家族様の協力で馴染みの美容室や歯科医院に通われている方もいます。	散歩の際に知人に会い会話を楽しんでいます。友人の来訪時には、利用者の近況を報告したり、再度来訪してくれるよう伝えていきます。また家族の協力を得て、墓参りや馴染みの場所をドライブしています。以前ハーモニカが好きだった利用者にはハーモニカのボランティアと楽しんでもらうなどの支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係、一人ひとりの性格を把握し、席位置を工夫をしたり、職員が間に入る事で孤立しないよう良い関係を築いて頂ける様努めています。		

グループホームたのしい家淀川(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても入院、他施設入所などの相談にのっています。また継続的なかわりが必要なご利用者様や家族に対しては付き合いを大切にして継続的に関わっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族、介護職員と十分に話し合い一人一人の意向を聞くようにしている。本人の意向を聞くのが困難な場合には表情などから読み取り本人本位に検討している。	日々の会話の中で好きな事や食べ物など、質問に応じてもらい意向の把握に努めています。困難な場合は職員が利用者の表情や観察の中で、気づきや得た情報を会議等で検討し、思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からは日頃の会話の中で聞いている。家族様、友人の方が面会にこられた時は本人様の話を聞くようにしています。また入居時には施設、病院の担当者や担当ケアマネージャーにも話を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活や様子を通じて出来る事出来ない事や好きな事、得意な事などを見分けながら、健康状態、気分などを含めて、総合的に現状を把握するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活を通じて本人の希望や意向を把握し、本人、家族、介護職員でカンファレンスをもうけ意見や要望を反映させた介護計画を作成して実践しています。またモニタリングを実践し現状に即した介護計画を作成しています。	家族の来訪時に希望を聞き、毎月のカンファレンスで検討しています。それをもとにサービス担当者会議を開き、介護計画を作成しています。また往診時の記録をもとに医師の意見を計画に反映させています。介護計画は3ヶ月毎にモニタリングし評価しています。再アセスメントは6ヶ月毎に行い計画の変更に繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子、気づき、これまでの暮らしの様子などケアの中で得た情報を個別の記録に記入して、申し送り、カンファレンスにおいて職員間で情報を共有しています。その上で定期的にモニタリングを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携での訪問看護、訪問マッサージ、介護タクシー、福祉用具のレンタルの相談、通院時の支援など多岐にわたるサービスの紹介、柔軟な対応をしている。		

グループホームたのしい家淀川(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練は消防署の協力を得て実施しています。地域の方にボランティアで来ていただき、歌や踊りの催しを実施しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族から今までのかかりつけ医との関係を伺い、その関係の継続を希望された場合にはそのように対応しています。	入居時に利用者のかかりつけ医の希望を聞いていますが、24時間対応もあり、ほとんどが協力医を利用しています。内科と精神科は定期的に往診があり、歯科も希望に沿って往診を受けています。以前のかかりつけ医を利用している方は、家族が付き添い、結果についての報告を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の身体状況、食事量、水分量の変化等常に看護師に相談し、適切な対応がとれるようアドバイスをもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は本人に面会したり家族と連絡を取り合ったりして早期に退院してもらえるように支援しています。また病院関係者にも連絡を取り、情報交換や相談をしています。また医療機関と家族様との話合いの場に同席させていただける場合は同席しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、家族に事業所の出来る事、出来ない事を説明している。終末期の方針についても話し合いを行っている。ご利用者の変化に応じてその都度本人、家族、職員、主治医と話し合いを行っています。	契約時に看取り指針を示し、事業所の出来ること出来ないことを説明し、家族の意向を聞いています。重度化した時点で身体的な病状の変化について主治医や家族、職員で話し合い、看取りの意向についても確認し支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応については研修を行い、全職員に説明し実践できるように指導しています。救急対応等についてはわかりやすいところに手順を表示しています。またAEDを設置し使用方法の講習を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと消防計画を作成し定期的に消防訓練を行っています。自治会に加入し回覧板は回ってくるが、地域の行事等には参加できていない。地域との十分な協力体制を築けるよう努めていきたい。	年に2回、昼夜を想定した避難訓練を実施しています。一度は消防署の指導を受け、避難訓練の他初期消火や通報訓練を行っています。地域の参加についてはの働きかけは行っていないのが現状です。	運営推進会議で参加を呼び掛けたり、避難訓練の際は地域に知らせる等の働きかけや地域の防災訓練に参加する等の取り組みから始められてはいかがでしょうか。

グループホームたのしい家淀川(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として人格を尊重し対応している。カンファレンス等でその人その人に合った声掛け、対応を話し合い実践している。	管理者は職員に対し、利用者に対する言葉かけには尊厳が守られるよう細心の注意を払うよう伝えています。不適切な対応がないよう職員間で注意し合ったり、会議の中で話し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の些細な表情の変化を見逃さないようにし、会話の中で思いや希望を探っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食欲がなく定時に食事できない場合や、急に入浴したい、散歩に行きたい等の希望があれば、出来る限り希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度の訪問美容の利用や入浴しなくても毎日本人の好みの服に着替えて頂くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや味見、後片付けや、お好み焼き焼きそば等スタッフと共に調理できる場合は参加して頂き出来るかごり関わってもらっている。	業者からメニューに沿った食材が届けられ、利用者は職員と一緒に下ごしらえや味見、後片付け等を行っています。時には利用者の希望でホットプレートを使ったお好み焼きやホットケーキ作りなどを楽しんでもらっています。回転寿司などの外食や弁当持参の花見等、楽しみの支援も行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時と15時にはお茶の時間をもうけているが、時間にとられずその人その人の好みに合った、飲み物をのんでき分量が1日を通して確保できるよう支援している。食事については医師、家族と相談しその人とその人に合った形態で提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で可能な方はスタッフが見守り、自力では難しい方はスタッフがお手伝いをしています。また歯間ブラシや口腔ケア用のスポンジを使用し清潔保持に努めています。定期的に歯科衛生士さんに口腔ケアを行っている方もいます。		

グループホームたのしい家淀川(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターン、兆候について職員間で意見交換をし、また排泄の兆候を見逃さないようにトイレで排泄できるよう努めている。	退院後に様子を見ておむつから紙パンツに変更し徐々に失禁が減ったり、仕草やサインを見てトイレ誘導し成功する等の事例があります。一人ひとりのパターンに応じた対応を心がけ、日中はトイレでの排泄ができるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、水分量、食事量、食事の内容等に注意し、また散歩など適度な運動をしてもらうよう心掛けている。排泄チェックは必ず行き便秘にならないよう気をつけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日の固定はしていないが、時間帯については排泄の失敗等緊急時以外は11時から16時の間をお願いしています。気持ちよく入浴していただけるように本人の体調や精神状態をよく観察し、声掛け、タイミングを職員で話し合っています。	其々の利用者が週に2回は入浴できるよう支援しています。マッサージの訪問を受けている利用者が希望に沿ってその前に入浴したり、拒否が見られる利用者にはタイミングを図り何度か声をかけるなどの支援をしています。時には入浴剤を使用したり、好みの石鹸を用意する等、入浴が楽しみになるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠の為、居室掃除、シーツ交換など清潔の保持に努めている。リビングにもソファを置き、いつでも休息できるようにしています。自立歩行や、訴えが難しい方については、様子観察をし必要に応じて誘導し居室で休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更があった場合には申し送りで報告すると共に、ノートに書き情報を共有している。副作用についても理解に努め、服薬による症状、体調、様子の変化などに注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握してカラオケ、手芸など楽しく過ごしていただけるよう支援しています。洗濯干しやたたみ食事準備や水やり等、入居者様の力によりスタッフと共に楽しみながら負担にならない範囲でしていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者様の体調や気候、希望を聞き散歩や買い物、喫茶店や外食に行きます。家族様の協力の花火大会に行ったり、毎週ドライブ出かけたり、毎年近所の公園でお花見をしています。	気候が良い時期は、日常的に近くの公園に散歩に出かけたり、商店街に買い物に出かけています。弁当持参で公園に花見に出かけたり、年に数回外食にも出かけています。家族の協力でドライブを楽しむ利用者もいます。	

グループホームたのしい家淀川(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的には家族より預かり金として管理しているが、希望や能力に応じて家族とも相談しながら、可能な限り本人に所持していただいています。おやつや洋服など、本人に実際に見てもらい可能な場合支払いは本人にして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から要望があれば、ホームの電話を使用してもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には季節感のある絵や、入居者様と手作りした作品を飾り、季節の移り変わわりを感じたり楽しい雰囲気作りに努めています。また懐かしい音楽をながしたり、適度な明るさ、湿度には注意を払っています。	玄関先に花壇を作ったり、リビングに毎月季節のちぎり絵を職員と共に作り飾るなど、季節を感じてもらう取り組みを行っています。食卓以外にもソファや椅子、マッサージチェアを設置し、寛げる場所を確保しています。時には昔の歌謡曲を流すなど、楽しみながら暮らせる支援をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには食卓だけでなく、応接セット、ソファ、マッサージチェアを置き思い思いに過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの壁飾りや、家族の写真、使い慣れた家具を置き、居心地よく過ごせるよう工夫しています。仏壇を持ち込んでいる方もいらっしゃるようです。	洗面台とクローゼットが用意された居室には、畳やカーペットを敷いて過ごしている利用者もいます。自宅にいるような雰囲気作りを心がけ、タンスや冷蔵庫、仏壇、テレビ、炬燵等、馴染みの品を持参されています。居室前には自作の絵手紙や工作を飾り、自室が解りやすいよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはわかりやすくピンクのマークを表示したり、居室には表札をつけ混乱を防ぐようにしています。		